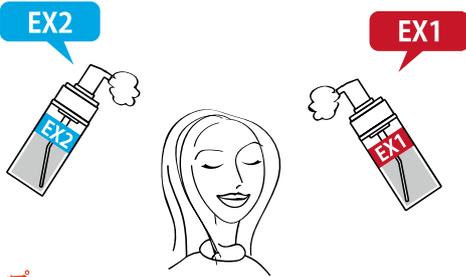


うねりがとれるヘアカラー うねりをとる工程

1



●プレシャンプー

お湯でしっかり予洗いを行ってから頭皮を擦らずに丁寧にシャンプーします。

●毛髪診断・前処理

ハーフドライのあと毛髪診断します。

ハイダメージ部分は EX2(原液) を塗布します。

ミドルダメージやローダメージ部分は EX2 を塗布します。

新生毛やクセが取れにくい部分は EX1 を塗布します。

EX1 または EX2 を頭皮に塗布すると 1H の刺激を緩和します。

前処理剤を塗布後ハーフドライします。

2



●1剤 1H 塗布

毛髪診断に基づいて 1H を塗布します。

根元・中間・毛先と時間差を設けて塗布しラップします。

根元ギリギリに 1H を塗布しても根元が折れることはありません。

※ 1H が頭皮に付かないように注意してください。

毛先が超ハイダメージの場合は EX4 または EX1(原液) を塗布します。

塗布に時間差を設けて根元と毛先を均一に軟化させることが重要です。

3



●放置または加温

毛髪診断に基づいて時間を設定し放置または加温します。

放置時間は10～15分が目安です。 ※オーバertime厳禁

10分以上放置しても軟化不足の場合は 1H を再塗布し放置又は加温します。

●軟化チェック

軟化が不十分だとクセが取れなかったりアホ毛が出来たりします。

●中間水洗

※アイロンの工程 5 が不要な場合は 4 中間処理の後、カラーの工程に入ります。

4



●中間処理 髪質改善

タオルドライの後、EX2 と EX7 を全頭に塗布します。

ハイダメージ部分は EX2(原液) を塗布します。

ダメージ補修効果がアップします。

※希釈率を変えると硬い髪にしなやかさを柔らかい髪にハリコシを与えます。

硬毛の場合は EX2 を6～8倍希釈で使用します。

軟毛の場合は EX2 を原液～2倍希釈で使用します。

5



●ヘアアイロン

完全ドライの後、ヘアアイロンで整えます。

ヘアアイロンの温度は150℃以下を推奨します。

※ヘアアイロン用のオイルやローションはヘアカラーの酸化重合を妨げるので絶対に使用しないでください。

ヘアアイロンの工程が終わったら、続いてヘアカラーの工程に入ります。

カラー剤の2剤がストレートパーマの2剤を兼ねます。

※続けて施術するヘアカラーの工程でプレシャンプーと毛髪診断は不要です。

※ 5 ヘアアイロンの工程を行わない場合は 4 中間処理の EX2 と EX7 を塗布後ハーフドライしてください。

応用施術例

●前処理

クセが取れにくい部分に EX1(原液) を塗布し5分加温するとダメージレスでクセが取れやすくなります。

ハイダメージ部分は EX2(原液) を塗布し5分加温するとダメージ補修効果がアップします。

※チオ系の1剤を使用する場合

チオ系の1剤に EX4 を10～20%添加すると硬さやバサつきが無くなります。